

第1回訓練時のアンケートにて頂いた ご意見・ご質問と葛飾区の考え方

頂いたご意見・ご質問に対する区の考え方を以下にお示します。

貴重なご意見・ご質問をいただきありがとうございました。今後の取組の参考にさせていただきます。

講義「葛飾区の被害想定と地域協働復興を知る」の内容について

ご意見・ご質問	葛飾区の考え方
1. もう少しゆっくり話して欲しいです。重要点は説明してください。	これまでも、必要な情報や要点を絞って説明するなど、区民の皆様が理解しやすい訓練となるよう努めてまいりましたが、前回の訓練では講義の時間に対して資料の内容が多く、駆け足になってしまい大変申し訳ございませんでした。今後も引き続き皆様分かりやすい講義となるよう努力して参ります。
2. 連合町会の範囲でしか説明がなかった。高砂北町会は、公園が少ないが桜道中、京成ドライビングスクール等広い場所もあり一時的な避難場所としては使える。しかし、連合町会が違うため話が出なかった。	高砂北町会内にある京成ドライビングスクールや、高砂北町会に隣接する桜道中などの広い場所の活用については、第2回訓練（都市の復興）のグループワークで議論していければと考えておりますので、ぜひご意見を頂ければと存じます。

その他のご意見

ご意見・ご質問	葛飾区の考え方
<p>1. もう少し区民の意見を聞いてほしい。</p>	<p>グループワークに関するご意見と推察します。時間の都合上、全員のご意見をじっくりお聞きできなかった班もあったかと存じます。</p> <p>そのため、グループワークの時間をなるべく多く設定するとともに、参加者の人数に応じてスタッフの人数を増やすなど、運営体制も改善していきます。</p>
<p>2. 倒壊や危険と判定された建物に住む人は、避難所に行くしかないが、そもそも避難所に入れる人数、その後の仮設住宅の建設可能数は被害想定で想定されている人数をカバーできるのでしょうか。日本の避難所や仮設住宅は、世界的にみて人権が守られていない仕様や運営になっていること、都内で災害が起こったら、より大変な状況になることを、もっと自分事として多くの区民が考えないと恐ろしいことになると思います。</p>	<p>(危機管理課より回答)</p> <p>首都直下地震等による東京の被害想定によれば、葛飾区全体で最大約 17 万人の避難者数が想定されています。それに対して、区が指定している小中学校の避難所の収容人数は約 85,000 人、都立・私立高校及び公共施設の避難所では約 11,000 人(長期収容の場合)となっているため、避難所の収容人数には限界がございます。また、仮設住宅の建設候補地としては区立公園等の公有地を検討しており、その他にも民間賃貸住宅を借り上げて、賃貸型応急住宅として活用します。しかし、区内の避難所や仮設住宅のみでは、避難者全員をカバーするのは難しいと考えております。</p> <p>そのため、区民の皆様には、可能な限り在宅避難や縁故避難をお願いしております。</p>